

旧城下町における都心公共施設の立地に関する研究

株式会社 大本組 正会員 林 大策
徳島大学 学生員 ○宮田 大揮
武庫川女子大学 正会員 三宅 正弘

1. はじめに

古代ローマ時代から公共施設は都市の中心に配置され都市形成の中核を担う施設であった。しかし近年では多くの公共施設が郊外に分散されることにより、都心部において都市の中心としてのイメージが希薄になりつつある。

2. 研究の目的

公共施設には表-1に見られるように、語尾にUMがついたものが多く存在する。そこで本研究では、それら語尾にUMのついた公共施設を用いた開発をUM-Developmentとし、Stadium(以下スタジアムとする)とMuseum(以下ミュージアムとする)をとりあげ、その立地の観点から都市の中心に関する考察を行うことを目的とする。

近世城下町には都市の中心を示す施設として「城郭」があった。日本における城郭には行政機能を持ったものとして都市に存在した物が多く、またその都市の象徴として扱われてきた。

そこで城郭を中心とした近世都市から現代の都市との都市構造について考察を行う。

表1 UM施設の例

競技場	Stadium
博物館・美術館	Museum
公会堂	Auditorium
体育館	Nasium
保護所	Asylum
水族館	Aquarium

3. 旧城下町における行政施設の立地

近世都市の城郭に代表されるように、行政施設は都市の中心に配置され都市経営、都市形成のうえで重要な施設であった。そこで現代の都市において行政機能の立地を調べるため、各都道府県庁所在都市の旧城下町において各都道府県庁と城跡との距離の関係を表したものを以下の表2に示す。

表2 城跡と県庁の直線距離

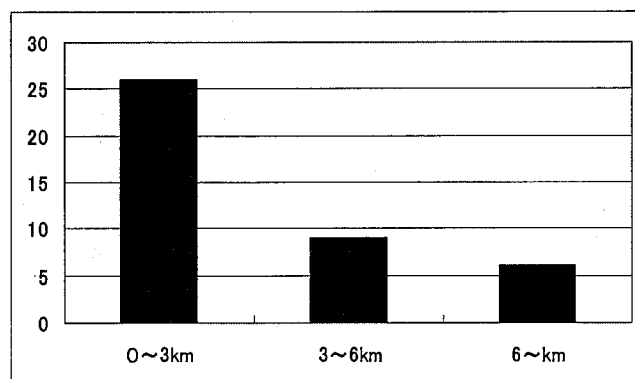


表2から都道府県庁は城跡から半径3km内の都心部に多く立地していることが分かる。この中にはもともと城郭があった敷地内に都道府県庁が建てられている都市もあり、ソフトという点では行政機能は都市の中心を表すものとして近世より都市の中心に配置されていることが分かる。一方で現代の都市における行政施設には城郭ほどの象徴性は見られず、ハードとして都市の中心を形成できていないと考えられる。

4. 旧城下町におけるミュージアムの立地

現代の都市におけるミュージアムの立地を見ることで、文化機能の位置付けに関する知見を得る。各都道府県庁所在都市の旧城下町におけるミュージアムと城跡との距離の関係を表したものを以下の表3に示す。

表3 城跡と Museum の直線距離

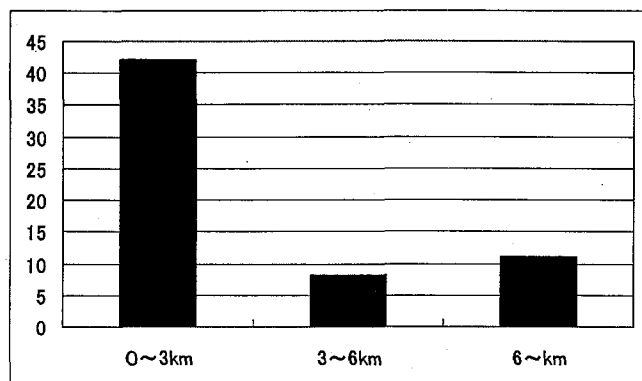


表3よりミュージアムは城跡から半径3km内の都心部に多く立地していることが分かる。特に都心部では図書館や公園といった他の公共施設と付随した文化公園とした立地の形態が多く見られた。これは都市における文化機能の集積を図ったものではないかと考えられる。

5. 旧城下町におけるスタジアムの立地

都市に不可欠な娯楽施設としてスタジアムは古代より都市の中心に配置されていた。

現代の都市においてスタジアムは都市の中でどう位置付けられているのかを明らかにするため、現在日本におけるプロスポーツ(プロ野球、Jリーグ)で本拠地として使用されているスタジアムを調査対象とした。

都道府県庁所在都市の旧城下町におけるスタジアムと城跡との距離の関係を表したものを以下の表4に表す。

表4 城跡と Stadium の直線距離

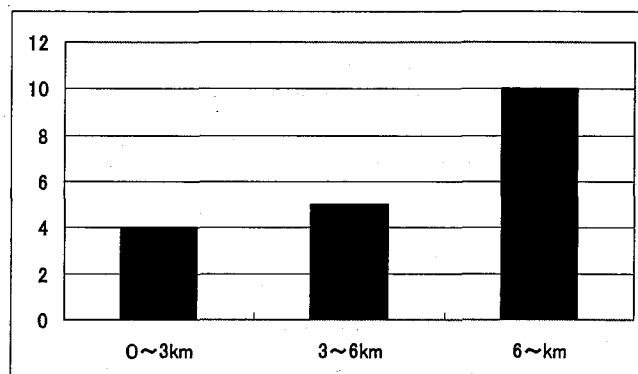


表4より Stadium の立地は城跡から半径6km以上離れた郊外に多く立地していることが分かる。

日本においてスタジアムは郊外に多く立地しているが、欧米諸国ではスタジアムは都市活性の手段として都市開発に用いられており都心に立地している。そのような都市においてはスタジアムが都市形成のための重要な施設として位置付けられていると言えよう。

6. 考察

本研究は都市における公共施設の立地に関する考察を行った。

行政機能を持つ施設は近世都市から現代においても都市の中心に配置されており、中心を示す指標の一つとなると考えられる。その一方で現代の都市においては中心に配置される施設は行政機能というソフトに関する機能が強く、近世都市の城郭に見られるようなハードとしての象徴性は少ない。UM施設については、ミュージアムは都心に多く立地しているもののスタジアムは郊外に多く立地していることが分かった。ミュージアム、スタジアム共に文化形成という都市における機能と併せて、その外観に特徴のあるものはソフトとしてのみならずハードとして機能するとも考えられる。

行政機能といった都市を構成するに必要な機能を持つ施設と併せて、ソフト面のみでなくハード面からも都市を象徴する施設となりうるUM施設が都市の中心としてのイメージを持続させる開発になるのではないかと考えられる。